

日本工業大学通信

発行所 日本工業大学 埼玉県南埼玉郡宮代町 郵便番号 345
電話 04803 (2) 3251代 印刷所 日放印刷 K K

校章の由来
この図柄は日本工業大学の日と工の字を組合せたもので、この学園のモットーである誠実、明朗、勤勉を色彩で表現している。即ち白色が誠実、ブルーが明朗、黒が勤勉で色調も工科系にふさわしい。
デザイン 野中政尚氏

本年度

施設計画の概要

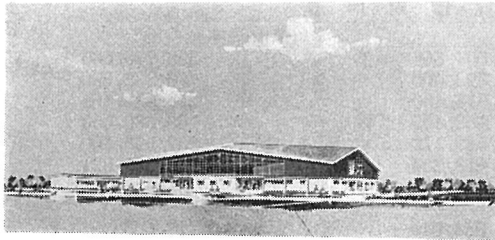
体育館など8棟

本学は昭和四十五年度で開学第四年目の大学完成年次を迎え、十一月には開学式を挙行する運びとなった。

思えば、四年前の今月、この六万坪の大学用地の上には、折からの涼風が、若い稲穂の間を吹き抜け、のどかな田園情緒をかもしだしていたのであるから、昔日の感慨ひとしお深いものがある。

本学では、ここ数年の間に出来る限りの努力を傾注して、必要な施設を建設し、かつ、環境の整備にも心掛けたいと考えている。次に昭和四十五年度に予定されている施設計画についてその概要をみてみよう。

一、体育館
下部鉄筋コンクリート上部鉄骨造、平屋延二三九四㎡、床コンクリート下地デックスオーテックス仕上、工期十一月初旬(以上予定、以下同様)
一、付属小体育館(武道場)
鉄骨造平屋延三六四㎡、床木製およびタタミ敷、工期十一月月上旬
一、機械・電気製図棟
鉄骨造平屋、延一二二八㎡、床コンクリート下地金コテP
タイル張り、工期本年度中
一、建築製図棟
鉄骨造二階建(または四階建)延一八一四㎡、床コンクリート下地金コテP
タイル張り、工期本年度中
一、機械自動制御実験棟
鉄骨造平屋、延四〇九㎡、床コンクリート金コテ、工期



体育館全景

しかし、大学が建学の理念をふまえながら、一応の基盤を社会の中に定着するためには、少くとも、二十年はかかるだろうとよくいわれる。とすれば、今年の本学はその第一

床コンクリート金コテ、工期

本年度中

一、機械精密測定実験棟

鉄骨造平屋、延五五四㎡、床コンクリート金コテ、工期本年度中

一、電気強電実験棟

鉄骨造平屋、延四〇九㎡、床コンクリート金コテ、工期本年度中

床コンクリート金コテ、工期本年度中

一、学生用クラブ棟

軽量鉄骨二階建、延二四六㎡、床ビニールタイル張り、外壁野田サイディングボード、建具アルミサッシ、工期八月下旬、後援会寄贈

四十五年度予算編成終る

△経常部支出△ について留意された事は、人件費の総額が授業料収入の六五%以内

あることが、大学の永続的発展の見地から必要と考えられるが、本年は六八%となった。

昭和45年度予算書

経常部		臨時部			
収入の部	入学検定料	5,000,000	収入の部	施設拡充費	74,800,000
	入学金	59,200,000		国庫補助金	45,300,000
	授業料	278,600,000		寄附金	15,000,000
	その他の収入	1,150,000		借入金	441,600,000
	合計	343,950,000		過年度末収金	40,213,000
支出の部	給経常経費	188,701,400	支出の部	経常部より繰入	80,447,926
	与費	57,420,000		合計	697,360,926
	設備費	10,500,000		施設費	348,540,000
	過年度末払金	6,880,674		設備費	73,000,000
	臨時部へ繰出	80,447,926		負債償還費	134,389,584
合計	343,950,000	合計	712,878,601		

△経常部支出△ について留意された事は、人件費の総額が授業料収入の六五%以内にあることが、大学の永続的発展の見地から必要と考えられるが、本年は六八%となった。△臨時部収入の部△ 過年度未収金は貸借対照表に示した未収金の回収分を計上した。借入金は、私学振興会より九千六拾万円。一般市中銀行より借入れが予定されている。△支出の部△ 過年度未払金は四十四年度に予定された未払金の支払及び手形の決済。設備費は実験用機械器具等の購入予定。施設費は体育館、製図棟実験棟等工事代の支払他校舎工事代未払金の手形決済を含む。負債償還費は負債の元金返済利息の支払、土地未払金の支払にあてる。収入の部合計と支出の部合計と対照すると支出が多く疑問を持たれると思う。これは本年度資金不足とな

る金額であるが、銀行等の借入れは行なわず法人内部の資金操作により予算が執行される。

四十四年度決算

会計監査 監事により厳正な監査が行われ四十四年度決算は公正なものと認められた。

貸借対照表は、財務内容の断面を示す表で、決算・予算を知る為に重要なものである。資産の部にはすべての資産が分類表示され、負債及び基本金の部にはすべての負債性の科目を表示し、差額たる基本金(正味財産)が示されている。現金預金は、三月三十一日に実際に保有する金員を示す。未収金四十四年度に確定している国庫補助金の未収入金等を示す(四十五年四、五月入金済)

有価証券は、サービスセンターに出資金、電話債を示す。借入金は、一般市中銀行、私学振興会よりの借入金残額を示す。預り金は、職員の諸掛金の預り、自治会、後援会の

金額であるが、銀行等の借入れは行なわず法人内部の資金操作により予算が執行される。前受金 四十五年度分授業料(新入生入学手続時納入分) 支払手形 校舎工事代金の手形払分。

資産の部		負債及基本金の部	
現金	52,504,566	入金	598,770,000
預金	42,593,000	借入金	9,338,839
債権	18,400,000	借入金	248,593,161
有価証券	162,405,000	借入金	60,680,000
固定資産	1,589,172	借入金	237,593,600
備品	13,813,204	借入金	1,330,581,321
機械	171,614,190		
備品	593,228,044		
土地	1,610,033,940		
建物	2,485,556,921		
その他			2,485,556,921

報告。五月二十四日、本学食堂ホールで、昭和四十五年定期総会が、一六名を擁して開かれた。(委任状一一五八)

後援会だより

総会は、青島会長のあいさつに始まり、昨年度の事業、ならびに、決算報告、会計監

初の就職活動

— その心がまえは —

来春卒業見込者の就職活動は、現在、最も激しく行なわれている。初めてづくしの今年だが、そのハンデを吹き飛ばすかのごとく、就職内定者が続出している。喜ばしいかぎりだ。次に、各学科の就職担当の教授より、就職に関する注意、心構えについて寄稿していただく。

◆機械工学科

既に大半の就職が内定してしまつて、時期はずれの感があるが、若干就職上の注意をのべることにする。まず受験する会社の選定には、自分の実力と相談すること。また、自分の狭い知識・経験から判断せず、経験豊かな担当の先生とよく相談する原則として二社以上同時に推薦しないのは、合格した会社を断るなどの不義理をして、日本工大の信用を落とさ

◆電気工学科

まず注意したいことは、一般に就職希望者に自己理解が欠けていることである。青年に大きな希望があることは望ましいが、自己の能力を客観的に判断せず、会社や職種を選定をして失敗をまねくのは残念である。先生方のすすめは、このことをよく考慮にいられてのことであるのに理解されず、あたかも有望な会社を見逃す結果となり惜しまれる。つぎに、電気プロパーの会社をめざすより、機械、建築、化学系などの会社の電気部門をねらうのも一つの方法

青島文男氏、副会長に佐々木勝一、由井速水、飯田薩男の三氏。監事は中村良吉、小林健司の両氏で、会計に大房一巧、内山政造両氏が選出された。会則改正 参与を規定し、大学の教職員中より参与を委

ないためであるが、受験日をよく調査して受験会社を選び、合格したら不義理のないようにしてもらいたい。また学校の推薦を受けながら勝手に受験をやめる人がいるが、止むを得ないときは至急主任教授に申出てもらいたい。まず注意したいことは、一般に就職希望者に自己理解が欠けていることである。青年に大きな希望があることは望ましいが、自己の能力を客観的に判断せず、会社や職種を選定をして失敗をまねくのは残念である。先生方のすすめは、このことをよく考慮にいられてのことであるのに理解されず、あたかも有望な会社を見逃す結果となり惜しまれる。つぎに、電気プロパーの会社をめざすより、機械、建築、化学系などの会社の電気部門をねらうのも一つの方法

である。いかなる企業にも電気技術者は待たれており、諸君の力を充分発揮できる場所を思惟ぬところに存在する。先生方のアドヴァイスには、よく耳をかたむけるべきだ。

◆建築学科

建築設計関係に殺到するのは、他大学にも見られる傾向であるが、その夢だけを追うのも一考を要する。設計事務所からの求人が現実には少なく、必然的に請負会社に入社することとなるが、設計部に

開学式について

六月三十日午後一時より第一回開学式準備委員会が開かれ、次のような基本方針が決定または確認された。

- 開学式は十一月二十日挙行される。
- 早急に招待者名簿案を作成検討する。
- 概略の予算試算案を作成する。
- 学生の代表を式典に参加させる。
- 当日終了後

秋のキャンパス

本学主催で学生祝賀会を開催する。○開学式に含めて新校歌の発表も行う。

大学祭について

学生がその研鑽の成果を発表する『日本工業大学祭』が完成年次を記念し、盛大に行

9月11日	夏季休暇開始
9月13日	休講 終る
10月6日	前期末試験開始
10月22日	後期授業開始
11月1日	前期成績発表
11月2日	休講
11月20日	休講
11月23日	開学式

日上教授に叙勲の栄誉

四月二十九日付、日上義雄教授(機械工学科)は、春の叙勲で勲五等双光旭日章に輝いた。

本学では、大木喜福理事長および吉田衛教授(機械工学科主任)に次いで三人目の壮挙である。

日上教授は、東京工科大学機械科(東工学園の前身)、東京物理学校理化学科を卒業し、東京瓦斯電気工業に入社。船舶、航空機、自動車等附属機器の国産化に貢献。

昭和十八年、園池製作所に入社。各種切削工具の改良開

欧米の精密技術と日本

機械工学科教授

工博 長 田 重 慶



長 田 教 授

ことながら、そこから発生する波及効果は、航空、海洋技術から教育システムにまで及ぶ、と聞きます。

それらは、精密加工、測定器の発達、その根底となっている、と考えます。

欧州でも同様に、軍事、原子力、自動車などの工業に力を入れており、それらに付随して、各国独自の特色ある工作、測定技術などが着実に進歩しつつある。

アメリカ鉄筋、欧州レンガ

日本は木造モルタル
さて、ここで、わが国のこの方面の技術を振りかえってみよう。確かに、日本のGNP、コンピューターの普及や造船・自動車・新幹線・電子

発。三十二年、東京工業高教諭以後、ジャパ・パンマシニスト顧問、サンケン電気(各種自動機械)、三菱金属鋳業(各種超硬合金工具)を経て、四十二年、本学の教授となる。

教育実習始まる

「置水練に終つてはならぬ。おまけに、水の中に飛び込んでみよ!」

顕微鏡などは、世界的レベルの技術水準と一般に言われ、工作機械もN/C、M/Cまたは、ロボットなども多く生産されている。

反面、諸技術の原動力となるべき巨大科学らしきものがないためか、また、必要性が少ないためか別として、残念ながら、日本の基礎技術、および、その蓄積はなきに等しいだろう。

米国の組織になる/自主的な技術開発力/の強さ。

この両者の技術と日本のそれとを、建物にたとえて比較するならば、米国の鉄筋・鉄骨であり、欧州がレンガ造りである。日本にいたっては木造モルタルの域を脱しきれないのが現状である。

今こそ、われわれは、この事実を落着いて考え直す必要がある。

敗戦からの復興を急ぐあま

六月五日(金)、教育実習に関するオリエンテーションが本学一二五教室で開かれ、指導教授からこう語られた。

学生諸君は、これから始まるであろう二週間の実習に想いをはせ、期待と不安とに緊張しているか見えた。

総勢六十九名の実習校は、東工学園をはじめ春日部工・清水高・久喜工・浦和工・高

り、皆がセカセカ、キヨロキヨロしながら、生産に携わってきた結果、経済大国とまで言われるようになった。

しかし、少なくとも、技術面に限るならば、虚弱肥満児である、といえよう。

輸出、輸出といっても、結局、安から売れるものが大部分である。

日本が、世界の雑貨屋だとか、下請企業だとかいわれる時、自信をもつて否といえましようか。

自主的な技術開発を

われわれ大和民族は、秀れた頭脳と伝来の勤敏さにおいて、世界一流であることは、自他とも認めることである、と考えます。

崎工・国土館・電気大付属・電波工・岩倉高・関東高の十一校。実習は早いところで六月三日より開始され、東工第五班、十一月四日で終了する。

置水練とは異った、教育実習の生活は、実習生達に、貴重な体験を得させるに違いない。学生諸君が、大学へ戻ってからの報告が心待たれる。

なぜならば、現在の日本が、少なくとも、私の関係する精密加工機においては、経済を無視しても、スイス・英国・ドイツといった国と同等以上のものができないのではないかと考える時、また、各工場の重要機械の多くが外国製であり、毎年、その輸入が増大しつつある時、未恐ろしさを感じられる。

さて、以上のような事実をふまえた上で、われわれ、技術の道に生涯をかける者として、次のことに留意していきたい。

つまり、第一に、基礎技術の充実、発展に尽すべきだ。それと同時に、国家は組織的に自主的な技術開発を最重点施策として、取り上げるべきだ、という点である。

かくしてこそ、二十一世紀が、日本および日本人にとって、最大の幸福を約束することを感じたいと思えます。

毎年、夏季休暇中に、機械工学科では、広い見聞を得るために、いろいろな産業の実習に自主的に参加することを奨励し、また、3年次までに必ず一回は参加することを義務づけている。

生産実習について

現3年次生で未参加者は、今夏季休暇中に必ず実習に参加することを希望する。

詳細については、揭示、または、機械工学科窪田先生へ問い合わせること。

■夏季特別英語講習
期間・7/15~7/21 対象
・3年生 講習費・千円 受付・教務課 募集人員百名

■夏季特別講習会電算機フォ
トラン
期間・8/24~8/29 募集
人員・五十名 受講費・千円 受付・教務課(7/20まで)

人 事

45・4・1付任用
教授 高見清(数学)
助教授 吉岡勝(英語)

間もなく、長い夏季休暇が始まる。この休みを有効に過してもらいたい。

まず第一に健康な生活を維持するとともに、体力増強につとめてもらいたい。長距離通学や、故郷を離れた生活を送っている一年生諸君は、とくに体調を整え、休暇後にそなえること。また、本学学生に限らず、最近の若者は、基礎体力に劣るものが多いと聞く。そのような人は、自己にあつたトレーニングを積んでもらいたい。

第二に旅や合宿に出かける人も多からうと思うが、そのような機会を多くもつて、世間を広く知り、良き友を得ることも少なくはないだろう。しかし、最近、一部の学生に非常識極まる行動で世間の非

学生時代でなければ味わえない長い夏休みがやってくる。海・山・アルバイト……それぞれに楽しいプランをたてていることだろう。ただ、現在、自らの人生の基礎をきずく重大な時期にある、ということをお忘れな

難をあげ、自らを滅ぼしているものもある。自分を正しく見つめて、良識豊かな行動をしてほしい。合宿等においてシゴキ、リンチ等があつてはならないことはもちろんである。第三にいろいろな人と対話をもつてほしい。大学の先生、母校の恩師、父母、兄弟、クラスメイトなど、夏の一

夏休みを有意義に

夜ビールでも飲みながら自分の考えをぶつつけ合うのはよいことである。取っ付きにくそうな人でも自ら積極的に飛込んで行く事が必要であり、他人のさそいを

待っているだけでは何も生まれない。議論し語り合う事により自らの向上もある。第四に本を読もう。とくに広い深い知識に欠けるのが本学学生の欠点であるともいわれている。本の種類を問う必要はないであろうし、それにこだわってはいけません。いつでも着手できない。しかし、できるなら、やさしくてもよいから、文学、人生論などをその一冊に加えて欲しい。

ただ、現在、自らの人生の基礎をきずく重大な時期にある、ということをお忘れな

- ① 「科学と神」 ウイナー
- ② 「材料革命」 黒岩俊郎
- ③ 「科学とは何か」 プロノフスキー
- ④ 「人間とは何か」 (右同)
- ⑤ 「技術の歴史」 ホーブス
- ⑥ 「しゃぼん玉の科学」 ボイナス
- ⑦ 「科学と産業—19世紀における—」 バナール
- ⑧ 「物理法則はいかにして発見されたか」 ファイマン
- ⑨ 「日本の技術者」 星野芳郎
- ⑩ 「科学と人間」 ハイトラウ

▲夏休みと読書▼

- ① 「科学と神」 ウイナー
- ② 「材料革命」 黒岩俊郎
- ③ 「科学とは何か」 プロノフスキー
- ④ 「人間とは何か」 (右同)
- ⑤ 「技術の歴史」 ホーブス
- ⑥ 「しゃぼん玉の科学」 ボイナス
- ⑦ 「科学と産業—19世紀における—」 バナール
- ⑧ 「物理法則はいかにして発見されたか」 ファイマン
- ⑨ 「日本の技術者」 星野芳郎
- ⑩ 「科学と人間」 ハイトラウ

◆機械工学科

- ① 「科学と神」 ウイナー
- ② 「材料革命」 黒岩俊郎
- ③ 「科学とは何か」 プロノフスキー
- ④ 「人間とは何か」 (右同)
- ⑤ 「技術の歴史」 ホーブス
- ⑥ 「しゃぼん玉の科学」 ボイナス
- ⑦ 「科学と産業—19世紀における—」 バナール
- ⑧ 「物理法則はいかにして発見されたか」 ファイマン
- ⑨ 「日本の技術者」 星野芳郎
- ⑩ 「科学と人間」 ハイトラウ

◆電気工学科

- ① 「科学と神」 ウイナー
- ② 「材料革命」 黒岩俊郎
- ③ 「科学とは何か」 プロノフスキー
- ④ 「人間とは何か」 (右同)
- ⑤ 「技術の歴史」 ホーブス
- ⑥ 「しゃぼん玉の科学」 ボイナス
- ⑦ 「科学と産業—19世紀における—」 バナール
- ⑧ 「物理法則はいかにして発見されたか」 ファイマン
- ⑨ 「日本の技術者」 星野芳郎
- ⑩ 「科学と人間」 ハイトラウ

◆建築学科

- ① 「科学と神」 ウイナー
- ② 「材料革命」 黒岩俊郎
- ③ 「科学とは何か」 プロノフスキー
- ④ 「人間とは何か」 (右同)
- ⑤ 「技術の歴史」 ホーブス
- ⑥ 「しゃぼん玉の科学」 ボイナス
- ⑦ 「科学と産業—19世紀における—」 バナール
- ⑧ 「物理法則はいかにして発見されたか」 ファイマン
- ⑨ 「日本の技術者」 星野芳郎
- ⑩ 「科学と人間」 ハイトラウ

鶴見君 (A二) 渡米

鶴見慎一君 (東工高出身・建二A在籍) は、YMC Aのサマーキャンプに参加すべく、去る六月九日羽田空港を発つた。ホノルルを経由し、ロスアンゼルスを経てデンヴァーに至り、ロッキー山脈中腹にあるエス

テスパークで諸外国から集まる青年たちと合流し合宿生活にはいった。「:英語は:食べる、寝るバスに乗る:全部用が足りてふしぎなくらい」と自信のほどを伝え、第二信では「アメリカの少女と親しくなり:」と元気いっぱい伝えてきた。帰国は九月下旬。

(図書館だより)

夏季休暇の開館日
隔週月曜日
7月13日・27
8月3日・17・31日
6月21日より、サービセンターの運営で、図書館にゼロックスを置き、学生の利用に供している。

◆教養科図書委員推薦

- ① 「科学と一般教育」 玉虫文一 岩波
- ② 「新科学対話」 G・ガリレイ 岩波
- ③ 「熱とは何か」 ヤ・エム・グリフェル 明治図書
- ④ 「職業としての学問」 M・ウェバー 岩波
- ⑤ 「世界をゆるがした10日間」 ジョン・リード 岩波
- ⑥ 「ドイツ・イデオロギー」 マルクス・エンゲルス 岩波
- ⑦ 「実践論・矛盾論」 毛沢東 岩波
- ⑧ 「オーレリアン」 ルイ・アラゴン 新潮社
- ⑨ 「土曜日の夜と日曜日の朝」 アラン・シリトー 河出
- ⑩ 「さざなみ軍記・駅前旅館等」 井伏鱒二 新潮社
- ⑪ 「人間はどこまで機械か」 J・Z・ヤング 白揚社
- ⑫ 「人間機械論」 ノーハントウイナ みすず
- ⑬ 「人間と機械」 東大出版会
- ⑭ 「人間と機械」 山内恭彦 岩波
- ⑮ 「科学からみた人間」 千葉康則 法大出版会
- ⑯ 「日本の大学教授市場」 東洋館出版社
- ⑰ 「統計学へのいざない」 東大出版会
- ⑱ 「禅と日本文化」 岩波
- ⑲ 「わが単独行」 東京創元社
- ⑳ 「量子力学の世界像」 弘文堂 朝永振一郎

動草書房

- ① 「二重らせん」 ワトソン
- ② 「暗黒星雲」 フレッドホイ
- ③ 「地球の科学」 竹内均
- ④ 「アンドロイド」 エドモン
- ⑤ 「二十一世紀からの報告」 M・ワシリエフ 光文社
- ⑥ 「山の博物誌」 西丸震哉 実業之日本社
- ⑦ 「マイクロの世界と超宇宙」 ケレル 東京図書
- ⑧ 「相対性理論入門」 ランダウ・ジュエコフ 東京図書

兼好 岩波文庫

- ① 「私の進化論」 今西錦司 思索社
- ② 「住宅問題」 エンゲルス 岩波文庫
- ③ 「徒然草」 兼好 岩波文庫
- ④ 「私の進化論」 今西錦司 思索社
- ⑤ 「住宅問題」 エンゲルス 岩波文庫

古川修 岩波新書

- ① 「日本の建設業」 古川修 岩波新書
- ② 「破壊の秘密」 寺尾宣三 法大出版
- ③ 「プレファブ」 内田祥哉 講談社新書